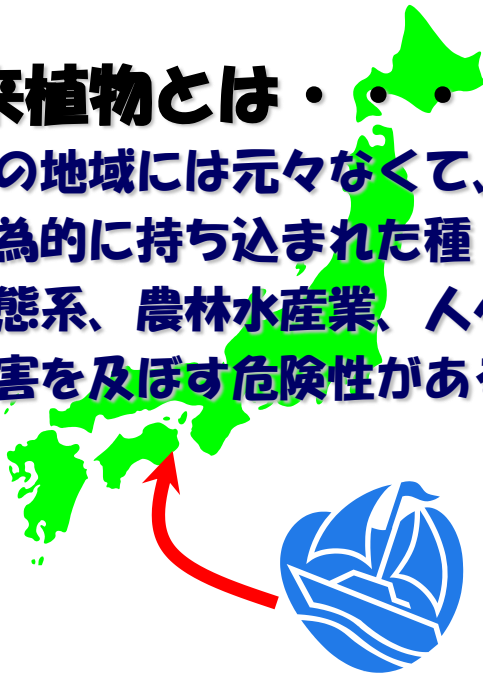


小松川自然地での草刈体験

～河川敷の生態系の保全に貢献するために～

外来植物とは・・・

- ・ その地域には元々なくて、人為的に持ち込まれた種
- ・ 生態系、農林水産業、人へ被害を及ぼす危険性がある






【荒川下流の外来植物】

- ・ 荒川下流での植物調査では、主に主な外来植物としてアレチウリ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ、オオキンケイギクなどが確認されています。
- ・ これらの外来種には、その生息域を分布拡大して在来生物の生育環境を犯す危険性があります。
- ・ 今、外来種の駆除に当たっては、ボランティアの力が必要とされています。

特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム

1. 荒川下流で問題になっている外来植物の例

・ここでは小松川自然地でよくみかける次の3種の外来植物について紹介します。

	セイタカアワダチソウ	アレチウリ	オオブタクサ
様相			
原産	北アメリカ	北アメリカ	北アメリカ
日本での分布	全国	北海道、本州、四国、九州を中心に分布	全国
侵入経緯	明治時代末期、園芸・鑑賞植物として意図的に導入	非意図的に侵入。アメリカ・カナダからの輸入大豆に種子が混入、	非意図的移入(飼料穀物や豆類に混入) 原産地では野生の七面鳥の食餌。
特性	ススキなどの在来種と競合する。高さは1-2.5mになる。茎は、下の方ではほとんど枝分かれがなく、先の方で花を付ける枝を多数出す。 花期は秋で、濃黄色の小さな花を多く付ける。種子だけでなく 地下茎 でも増える。根から周囲の植物の成長を抑制する 化学物質 を出す。天敵昆虫や病原体の増加でやや衰退か。	特定外来生物 (※) に指定されている。花期は8月から9月で、花の後には白いトゲに覆われた実がなる。繁殖力は凄まじく侵略性は高い。河川敷などの在来種、畑作物、イネ、造林木との競合 果実は長さ1センチほどで長くて鋭い棘が密生する。触ると痛く、棘は細くて硬くしなやかなので、ジーンズ程度の服ならば貫いて刺さったりする。	茎の高さは1mから3mに達する。葉は茎に対生し、形は掌状に3から5裂し、縁は鋸歯状、葉の表裏ともざらつく。花期は8月から9月で、茎の上部に雄頭花が総状につき、その下に雌頭花がつく。同じ属の外来種である ブタクサ とともに 花粉症 の原因として知られる。日本国内ではスギ、ヒノキに次ぐ患者数が存在するとされる。

※特定外来生物とは侵略性が極めて高く国の定める法律『特定外来生物法』で駆除の対象と指定されている生物をいう。

2. 外来植物による悪影響

・これら3種類は、それぞれ特性を持ちますが、共通して、在来植物への圧迫、及び生態系の破壊という悪影響を及ぼしています。

生態系の破壊

セイタカアワダチソウ



周囲の植物の成長を抑制

花粉症の原因

河川の水流通害

アレチウリ

激しい繁殖力と侵略性

鋭利なトゲ



オオブタクサ

3. 駆除の必要性

維持管理を行うに当たり

- ◇ いったん繁殖した外来種は、定期的に草刈を実施し、かつ数年間継続してみないと効果が出ないといわれています。

※農薬の散布は、外来種以外の生命にも悪影響を及ぼすため、極力控えていかなければなりません。

- ◇ それには、地道な維持管理活動が必要になります。
- ◇ 一方、荒川では、外来種を含めて生態系が既に形成されています。
- ◇ 一気に除去するのではなく、外来種と関係を持つ在来種に配慮し、慎重に、然るべき生態系を取り戻していくことが重要です。

今後の活動

- ◇ 荒川クリーンエイド・フォーラムでは小松川自然地を中心に、本活動を継続し、どのような自然を取り戻していくべきか考えていきたいと思っています。
- ◇ 今、継続して活動するボランティアの力が必要になっています。
- ◇ ホームページをご覧になって本活動（11/7・11/20）にご参加ください。

■参考：・特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム(2005)発行『荒川遊学ガイド』 ・国立環境研究所ホームページ『侵入生物データベース』
・特定非営利活動法人 荒川クリーンエイド・フォーラム(2008)発行『あらかわ楽習実』 ・荒川下流河川事務所(2010)発行『荒川将来像計画2010推進計画の策定』
■写真：・Free software foundation